

関西医科大学 広報



握手を交わす山下理事長と小林久隆氏

光免疫医学研究所開設へ

Vol.51

CONTENTS

トピックス：「関西医科大学附属光免疫医学研究所」設置について

P.1

大学：研究最前線

P.7

大学：世界大学ランキングにランクイン

P.4

病院：DMATが熊本に派遣

P.11

大学：本学と門真市・門真市医師会が連携協定を締結

P.4

新企画 アート探訪：
関西医大で鑑賞できる美術品をご紹介します

P.14

「関西医科大学附属光免疫医学研究所」 設置について

理事長 山下 敏夫

本学では教育・診療に加えて研究にも注力しており、その成果は世界大学ランキング等で既に高い評価を得ています。私の学長の時に、本学の研究力をさらにもう一段レベルアップするために、「その領域で、世界でonly oneかつnumber one」となる最先端医学研究所構想を立て、毎年の年頭所感でその思いを述べてきました。

この新研究所を実現させるためには3つの条件が必要で、第一の「経営の安定」、第二の「施設などの研究環境」はここ数年で整い、最後に第三の「テーマと核となる人材」の選択が残りました。そこで理事長直轄の「人材育成確保検討作業部会」と「新医学研究所設置検討作業部会」でその選択について慎重な検討を重ねました。その結果、この構想の方向性と正に一致し、独創的研究手法の開発と臨床応用研究の展望、及び日本における今後の活動の見通しなど総合的に判断し、がんの「光免疫療法」を開発した米国NIH主任研究員小林久隆氏に着目し、同氏を招聘し「関西医科大学附属光免疫医学研究所(略称：関西医大光免疫医学研究所)」を開設することにしました。

「光免疫療法」はがん細胞に結合する薬の投与後、人体に無害な近赤外線を照射することにより、薬と近赤外線が化学反応を起こし、がん細胞を破壊するという最新のがん根治療法です。かつて米国オバマ元大統領の一般教書演説で取り上げられたこともあり、副作用の少ない夢のあるがん治療法として大きな期待が各方面から寄せられています。現在既に難治性頭頸部が

んへの同治療法の治験が世界規模で行われており、第Ⅱ相試験までの報告では非常に良い結果を得ています。今後、光免疫療法が頭頸部がんのみならず種々のがんの治療法に寄与する可能性は高く、そのためには多くの研究資源と優れた人材が必要で、本学の新研究所はそれらを提供する日本における研究拠点となります。

本年2月にこの新研究所設置に関する基本的な覚書を小林氏と交わし、本学理事会・評議員会での承認を経て7月に同準備室を開設し、本格的な準備に入りました。同研究所は学舎研究棟の4階フロア全体を中心に既在の研究施設も併用、3つの研究部門に約30人の研究スタッフを揃える予定にしています。その1つの部門長として既に花岡宏史氏が着任しています。今後、2022年4月に小林氏を所長(当面NIH兼務)として同研究所が正式にオープンする予定です。

同治療法の治験は第Ⅲ相試験が国内外で現在進行中ですが、本年9月30日に日本で世界に先駆けて光免疫療法の治療薬が早期承認されました。早ければ年内にも薬価収載される見通しで、いよいよ患者さんへの治療が始まることとなります。この承認を踏まえて、本学の新しい研究所開設予定を学内外に広報するとともに10月5日に同氏と覚書の調印式を挙行了しました。

本学は、小林久隆氏とともにこの新しい研究所を拠点として、治療法がなく苦しんでおられるがん患者さんにとって明るい道しるべとなるべく、光免疫療法の基礎及び臨床研究を推進します。



小林 久隆 氏

Hisataka Kobayashi, MD., Ph.D.
Chief (Senior Investigator), Lab. Molecular Theranostic,
Molecular Imaging Program, Center for Cancer Research,
National Cancer Institute, NIH

略 歴

1987年 京都大学医学部卒業
1995年 京都大学大学院内科系核医学専攻修了
1995年 Visiting post-doctoral fellow, Nuclear Medicine
Department, CC/NIH
1998年 京都大学医学部映像医療学講座助手
2001年 Senior Fellow, Metabolism Branch, CCR/NCI/NIH
2004年 Chief Scientist, Molecular Imaging Program, CCR/
NCI/NIH
2015年 Senior Investigator (Tenure) ,Molecular Imaging
Program, CCR/NCI/NIH
2019年 関西医科大学客員教授



調印式にのぞむ小林久隆氏(左)

新医学研究所設置準備室室長・研究所教授に就任して

新医学研究所設置準備室室長兼研究所教授 花岡 宏史



7月1日付で関西医科大学新
医学研究所設置準備室の室長
兼研究所教授を拝命いたしま
して、新設される研究所の立
ち上げに従事することになり
ました。関西医科大学の新た
なブランドとなるような特色

ある研究所を作り上げていくという重責に身の引き締まる
思いです。

私は薬学部の出身であり、大学において研究室に配属
されてからこれまで20年以上にわたり、放射性核種(RI)
で標識した薬剤=放射性薬剤に関する研究に従事し、が
んの診断・治療を目的とする新規放射性薬剤の開発研究
に励んでまいりました。また米国NIH(国立衛生研究所)
に留学した際には、光増感剤を結合した抗体を体内に投
与し、病変部位に光を照射することで、がんの治療を行
う「光免疫療法」の手法を学び、帰国後も光免疫療法に
関する研究に携わってまいりました。新医学研究所は、
光免疫療法を中心とした最先端の医学研究を行う施設を

目指しており、私のこれまでの経験を活かして、世界に
誇れる研究所を作り上げていきたいと考えております。

一から研究所を立ち上げていくことから皆様のお力添
えが必要ですし、また研究所の発展には皆様方と密に連
携し共同研究等を行っていくことが重要と考えておりま
す。関西医科大学の発展に貢献できるよう努力する所存
ですので、今後ともご指導、御鞭撻の程何卒よろしくお
願い申し上げます。

略 歴

1999年 3月 京都大学薬学部卒業
2001年 3月 京都大学大学院薬学研究所修士課程修了
2003年 7月 京都大学大学院薬学研究所博士後期課程途中退学
2003年 8月 群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情
報解析学講座助手
2007年 4月 群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情
報解析学講座助教
2011年 3月 千葉大学大学院薬学研究所分子画像薬品学研究室助教
2013年 6月 米国国立衛生研究所(NIH) Molecular Imaging
Program Visiting Fellowship
2014年 4月 千葉大学大学院薬学研究所分子画像薬品学研究室助教
2014年 8月 群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情
報解析学講座特任准教授
2020年 7月 関西医科大学新医学研究所設置準備室室長兼研究所
教授
2020年 7月 群馬大学大学院医学系研究科ラジオセラノスティクス
共同研究講座客員教授(兼任)

「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様のご協力をお願い申し上げます

募集要項	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他
募集期間	令和3年3月末日まで

税制上の優遇措置	
個人	所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます
法人	受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます

進行中の主な事業	
リハビリテーション学部棟竣工	令和3年1月
タワー棟竣工	令和3年9月
光免疫医学研究所設立	令和4年予定
附属病院リニューアル	計画中

詳しくは、募金室ホームページをご覧ください。



建設中のタワー棟模型

なお、この募金の応募は任意です。

令和2年7月から令和2年9月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

遺贈・相続財産によるご寄付も承ります

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店(06-6366-0401)

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部(06-6220-2515)

法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	9月30日	門真市・門真市医師会、本学の連携協定記者会見
	7月1日	新医学研究所設置準備室設置
	7月7日	看護学部「生活看護論実習Ⅲ」健康教育
	7月19日・8月9日	看護学部リアルオープンキャンパス
	7月19日・8月16日・9月20日	リハビリテーション学部リアルオープンキャンパス
大学	7月20日	大学消防訓練
	7月26日・8月15日	医学部リアルオープンキャンパス
	8月4日	看護学部3学年進路ガイダンス
	9月5日	白菊会総会
	9月17日	学長賞授与式
	9月29日	大学院医学研究科学学位記授与式
附属病院	7月10日	大阪府がん教育講演会
総合医療センター	7月6日～	DMAT派遣
香里病院	8月20日	KORIプログラム始動
	9月3日	藤本病院・COPD勉強会
くずは病院	8月1日	くずは病院電子カルテ導入
	8月7日	令和3年度初期臨床研修医採用試験(第1回)
卒後臨床研修センター	8月14日	令和3年度初期臨床研修医採用試験(第2回)
	8月29日	令和3年度採用専攻医研修説明会



門真市・門真市医師会、本学の連携協定記者会見



大学消防訓練



藤本病院・COPD勉強会

世界大学ランキングにランクイン



9月2日(水)、英国の高等教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2021が発表されました。

このランキングは、毎年秋に公表されている国際的な大学ランキングで、教育力、研究力、研究の影響力(被引用論文)、国際性、産業界からの収入の5分野13項目をスコア化し総合力を測ったもので、ほかのランキングと比べて研究力と教育力に比重を置いた評価が特徴です。今回評価項目の中で、本学は「研究の影響力(被引用論文)」において高い評価を得ました。

その結果、本学は『601-800』位(去年は501-600位)にランクインしました。国内では国公立の総合大学を含めて14位^{*1}、関西地区では京都大学、大阪大学に次い

で3位(神戸大学と同順位)です。

グローバル化の時代においては、大学が世界に開かれ、充実した留学制度・環境が整い、教育・研究の質が保障されていることが重要となります。本学は引き続き、研究者の育成、学生の教育支援、学習環境の充実や学術の発展に、一層邁進します。

SCORES (項目ごとのポイント)	
Overall	30.2 - 36.3
Teaching (教育力)	27.5
Research (研究力)	8.8
Citations (被引用論文)	72.8
Industry Income (産業界からの収入)	34.6
International Outlook (国際性)	18.5

※1 東京大学、京都大学、東北大学、東京工業大学、名古屋大学、産業医科大学、大阪大学、九州大学、東京医科歯科大学、筑波大学、藤田医科大学、北海道大学、帝京大学に次いで、会津大学、東京慈恵会医科大学、慶応義塾大学、神戸大学、日本医科大学、横浜市立大学と並んで14位

本学と門真市・門真市医師会が連携協定を締結

9月30日(水)14時30分から、「門真市・門真市医師会・関西医科大学連携協定締結式」が行われ、出席した本学友田幸一学長と門真市宮本一孝市長、門真市医師会外山学会長が「門真市民の健康づくりの推進に関する協定書」に署名しました。この協定は、門真市民の皆さんが健康で自分らしく生きるために市と医師会、本学が相互に連携・協力するためのものです。オンライン会見形式で行われた締結式では、友田学長・宮本市長・外山会長がそれぞれ挨拶を述べました。今後3者は運動や食事、医療行政を通じた健康づくりの推進に向けて様々な施策に取り組んでいく予定です。

また、締結式の後は本学が2019年度に門真市から委嘱されたスポーツ庁の「運動・スポーツ習慣化促進事

業」成果の報告が行われ、参加したメディア各社に対して本学健康科学教室木村穰教授が事業の内容や結果を発表しました。



左から友田学長、宮本市長、外山会長

2020年度オープンキャンパス開催

医学部

7月26日(日)および8月15日(土)の13時から16時まで、枚方学舎において2020年度医学部リアルオープンキャンパスが新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで開催され、2日間合わせて延べ292名が参加しました。

学舎見学会では在学生在が参加者を引率し、図書館や学生食堂、シミュレーションセンターを見学した他、7月26日は附属病院の外来なども見学し、参加者は普段入ることのない大学構内の様子に興味津々でした。

また、個別相談会では、在学生在が学生生活や受験勉強について相談に応じるブースや、大阪府・静岡県・新潟県の担当者が来学して地域枠諸制度の相談に応じるブースなども設けられ、熱心に相談している様子が見られました。



シミュレーションセンター見学の様子

看護学部

7月19日(日)および8月9日(日)、枚方学舎において2020年度看護学部オープンキャンパスが開催されました。感染症対策のため完全予約制となった今回は、12時30分から順次3クールに分けて実施。

看護学部片田範子学部長の挨拶、入試ガイダンスの後、グループごとに看護学部棟の施設見学や病院見学が行われました。

また、個別相談ブースでは、入試やカリキュラムなどについて教員に相談できる相談ブースに加え、オンラインで在在学生と個別に話ができる学生相談ブースが設置され、学生生活や入試対策などに関して熱心に相談する様子が見られました。



シミュレータを体験

リハビリテーション学部

7月19日(日)、8月16日(日)、9月20日(日)、枚方学舎において来春牧野校地に開学予定のリハビリテーション学部オープンキャンパスが開催されました。いずれの日程とも10時から、本学リハビリテーション学部の特徴や入試概要を解説する「学部説明」、リハビリテーションとは何かを解説する「模擬講義」や、理学療法士や作業療法士の業務に関する説明などが行われました。

その後は、附属病院のリハビリテーションセンターを見学。実際に療法に用いられる機器や道具について、理学療法士や作業療法士の説明を聞きながら見学しました。また個別相談では、学生生活や本学での学びについて相談する様子が見られました。



リハビリテーションセンター見学の様子

オープンキャンパスOnline開催

医学部

看護学部

リハビリテーション学部

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオープンキャンパスの開催方法が変更、縮小されたことを受け、「オープンキャンパスOnline」のコンテンツを本学サイトに公開しました。

オープンキャンパスOnlineでは、学長メッセージや学舎紹介動画、入試説明、2021年4月開設予定のリハビリテーション学部の学び紹介動画などを公開しています。



大学院医学研究科医科学専攻修士課程を開設

本学は、文部科学省からの開設認可を受け、2021年4月に大学院医学研究科医科学専攻修士課程を開設いたします。

昨今の医学・生物学の進歩は目覚ましく、医療の現場においては、従来の経験則に基づく医療方針に代わりエビデンスに基づいた医学(EBM: evidence-based medicine)の確立が喫緊の課題とされており、生物・薬学・農学に加え数理工学や情報科学など自然科学系の最新の知見を有した人材の確保が急務となっています。本

学が目指す高度次世代医療を担う新たな医人を育成する「医科学専攻修士課程」にご注目ください。

概 要	
専攻名称	医科学専攻
課程名称	修士課程
入学定員	8名
取得学位	修士(医科学) Master of Medical Sciences
研究分野	先端医科学分野、ゲノム医科学分野、医用工学分野

第39回関西医大白菊会総会を開催

9月5日(土)13時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「第39回関西医大白菊会総会」が開催され、友田幸一学長を始めとする本学教職員と篤志により医学教育のための献体を希望する会員ら58名が参加しました。

友田学長の挨拶に続いて白菊会役員との紹介があり、藤澤直子白菊会会長が挨拶しました。その後、整形外科講座の齋藤貴徳教授による特別講演会が行なわれました。

議事では、行事・会計報告、会計監査報告、2020年度予算審議、今年卒寿を迎えた会員への記念品贈呈のほか、会則の変更に関する説明や解剖学講座の北田容章教授による「献体の新しい役割－医師への生涯教育への貢献－」と題した講演も行なわれました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて総会の開催も一度は延期され、例年実施していた第2部を中止するなど簡略化し、密にならないよう座席の間隔を明け、写真撮影を取りやめるなど、感染対策に努めた会となりました。

令和元年度学長賞授与式

9月17日(木)正午から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「令和元年度学長賞授与式」が執り行われました。今回は、第71回西日本医科学学生総合体育大会運営委員会(委員長:5学年高島寛之さん)、同大会サッカー部門で優勝したサッカー部(代表:5学年永田裕太郎さん)に、友田幸一学長から表彰状と副賞が贈られました。

その後挨拶に立った友田学長が、日頃の勉学と並行して積み重ねた受賞者の努力と栄誉を称え、特にサッカー部の優勝について「大会の運営もある中で優勝できたことは大変意義があること」とコメントしました。



受賞者を代表して、高島さん(手前左)、友田学長(手前中央)、永田さん(手前右)

1 学年課題川柳表彰式

学長賞授与式に引き続いて、枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「令和2年度1学年課題川柳表彰式」が執り行われ、最優秀作品として1学年井上浩太郎さんの作品が、優秀作品として1学年栗原玖季さんの作品がそれぞれ選ばれ、友田幸一学長から表彰状が贈られました。

その後挨拶に立った友田学長は、昨年まで課題川柳の作成披露を行っていた新入生合宿研修がコロナ禍の影響で中止になったことが大変残念であると述べた後「川柳の言葉通り6年間勉学にしっかり励んでほしい」と激励しました。

井上浩太郎さん作品 「医の道を 極めるまでは 驕らない」

栗原 玖季さん作品 「上ってこう 医の知の階段 一歩ずつ」

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

「障がいのある子どもの力を高めるための災害教育」の研究

看護学部・看護学研究科 加藤 令子 教授

—研究を始めたきっかけを教えてください。

茨城県の大学に勤務時「医療と教育の連携」の研究に取り組み、特別支援学校との繋がりができました。その時にふと「災害発生時に特別支援学校に在籍している障がいのある子ども達はどうなるのだろうか」という思いを持ち、研究を始めました。現在に至るまで、発展させながら同じテーマで研究を続けています。

—研究について教えてください。

前述の着想を得たのち、2008年から「医療を必要とする子どもへの災害の備え」の研究に取り組んできました。当時研究をしていた茨城県では小児専門病院・病棟の看護師を対象に、阪神淡路大震災の経験を基に兵庫県立大学看護学研究科21世紀COEプログラム小児班(研究代表者:片田範子氏)が開発した『小児病棟用ケアパッケージ』『在宅支援者用ケアパッケージ』の活用を促してきました。一方、特別支援学校の災害の備えにおいては、当初、私達研究班は、医療的ケアを必要とする子どもたちへの災害の備えを行うことを主眼に取り組んでいましたが、教諭の方々へのインタビュー調査において、全ての子どもを対象とすることが必要という結論になりました。

研究を始めた当初はまだ東日本大震災も発生する前で、当時の茨城県は大きな災害もなく、最初は協力してくださる学校を探すのにも苦労しました。しかし何度か必要性を説明することで、何校かに協力していただくことができました。まず、先生が子どもを守るという観点から「イメージトレーニング編」「備蓄編」「設備編」という三つからなる『特別支援学校用災害シミュレーションパッケージ』(茨城県立医療大学地域貢献研究)を開発しました。実際に6校の学校が研究に協力して下さり、生徒一人ひとりの備蓄の準備や、建物内の危険な場所のチェック、災害発生時の教諭としての行動についてのイメージトレーニングを行っていたさなかに、東日本大震災が発生しました。研究の結果、パッケージを用いて日頃から訓練をしていた学校とそうでない学校では被災時の対応に大きな差があったことが明らかとなりました。研究を続けるうちに子どもが学校にいない時間や、通学途中、あるいは校外にいる時間、また最終的には子どもたちが卒業していくことを考えると、学校で先生たちだけが備えをしていても十分とは言えず、子どもたち自身のセルフケア能力を高める必要があると考え『肢体不自由児が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためのパッケージ開発』のテーマで研究費(科研C)を獲得しました。

セルフケア能力を高めるためのパッケージは、細かな発達段階・認知別に分けて高めるべきセルフケア能力を示し、子どもが獲得すべき行動、教職員の支援、保護者の支援を提示しています。これは子どもを主体とし、子ども自身がどういった能力を



獲得すればよいのかを肢体不自由のある子どもとその養育者、教諭へのインタビュー調査から抽出し作成しています。開発したパッケージを活用し関東2県の5特別支援学校で実際に子どもに介入してもらいました。介入前後には、通知無しの避難訓練を実施してもらいました。この結果、肢体不自由の子どもだけではなく重度重複障がいのある子どもにおいても、このパッケージを使うとセルフケア能力が高まるということがわかりました。また、このパッケージを用いて評価表の項目に則って子ども個々の行動を確認すると、親や先生もできると思っていなかったことができたり、逆にできるだろうと思っていたことができなかつたりする、つまり子どもたち自身の持つ能力を明らかにできることが研究でわかりました。

これらの研究に関連して、2011年にアメリカのUNIVERSITY OF COLORADO-ANSCHUTZ MEDICAL CAMPUSへ調査に行きました。そこでは偶然にも、アメリカの障がいのある子どもたちのリソースセンター(NRC)のディレクターである方が教授をされており、アメリカの子どもたちの災害に備えるツールなどの様々な資料をいただきましたが、その中には子ども自身のセルフケア能力を高めるためのツールはありませんでした。おそらく、私達が開発したこのツールは世界初のものだと思います。

こうして研究を続ける中で、肢体不自由のみでなく、他の障がいのある子どもたちが様々な場に対応できる能力をいかに身に付けていけるか、また、ICT教材の開発にも主眼を置き「障がいのある子どもが自然災害に備えセルフケア能力を高めるための支援構築」の内容で研究費(科研B)を獲得しました。既に作成したパッケージを他の障がいのある子どもたちに適用できるか調査し、改良しました。ICT教材は地震を対象に地震発生から校庭避難までとし、IQ50(精神年齢を小学校3年生)程度を想定して開発しました。このパッケージは、これまでの研究で得た知見の多くを反映しています。実際に開発した教材を3回にわたり子どもたちに使ってもらったところ、セルフケア能力があがったことが確認できました。そして、これらの研究に関して2018年度に講演会、2019年度末に講習会を行い、関心のある学校教諭等に公開したところです。

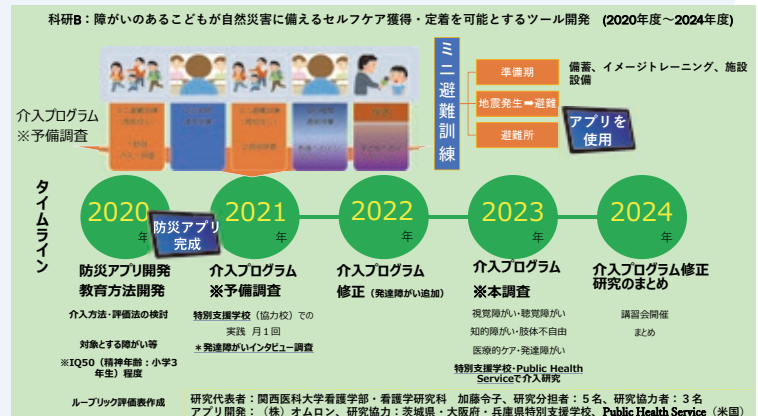
国際的な面について述べると、一番初めのシミュレーションパッケージの結果を2012年に神戸市で開催されたWHOのコンファレンスで発表したところ、WHOのコラボレーションセンター職

員から英語版も公開してほしいと依頼を受け、作成しました。それ以来すべてのパッケージで英語版も作成しており、海外の学会でも度々発表しています。2019年度にミネソタ州ロチェスターで、MAYO CLINICで研修を受けた看護師の同窓会が開催され出席した際、ロチェスターのPublic Health Service 職員とSchool Nursesに本研究のプレゼンテーションを行いました。また、英語版を提示しアメリカでの活用の可能性について尋ねたところ、非常に興味を持ってもらえ、Public Health Service 職員と国際共同研究を行うことになりました。その際、ワシントン等で開催される大規模な学会やSchool Nursesの学会で発表するよう勧められました。今年度より科研費(科研B)を取得した『障がい等のある子どもが自然災害に備えるセルフケア獲得・定着を可能とするツール開発』においては、発達障がいのある子どもを対象に加えること、今後も大規模な災害発生が予測される地震について、発生から避難所生活を経て家に帰るまでのICT教材を企業と共同で開発すること、獲得したセルフケアが長期的に定着するための教育方法とそれを評価するための評価法を開発することになっています。この研究はアメリカおよび、茨城県、大阪府、兵庫県の特設支援学校の協力を得て行うことを予定しています。現状、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアメリカとの共同研究は難しい状況ですが、2023年にアメリカでの実施を計画していますので、それまでは予備調査等、国

内での準備を進めたいと思います。

—後輩へのメッセージを

研究にはとてもパワーがいります。特に私が行っている研究はすべて介入研究で、学校の先生方など他職種の方との連携と協力なくしては成り立ちません。得られた知見や成果を協力してくださる人やひいては社会にお返しすること、研究したことが社会にどう役立ったかを協力してくださった方自身にもしっかりお見せすること、そういう関係作りがとても大切です。感謝を忘れずに、研究に取り組んでもらえればと思います。



※この記事はインタビューをもとに再構成したものです。

■主な競争的研究費採択歴

2020 科学研究費助成事業基盤研究(B)

「障がい等のある子どもが自然災害に備えるセルフケア獲得・定着を可能とするツール開発」

2015～2019 科学研究費助成事業基盤研究(B)

「障がいのある子どもが自然災害に備えセルフケア能力を高めるための支援構築」

2011～2013 科学研究費助成事業基盤研究(C)

「肢体不自由児が災害の備えへのセルフケア能力を高めるためのパッケージ開発」

■関西医科大学在職中(2016年4月～2020年4月)における研究により獲得した競争的研究費総額

【総額】20,150,000円 【研究費内訳】 文部科研費 20,150,000円

■海外での研究発表

Kato, R., Komuro, K., Nishida, S., & Numaguchi, C. (2012). Teachers' recognition of the Function of Education for Children with Physical Disabilities to Improve the Self-Care Ability: For organizing disaster preparedness in each developmental age group. World Society of Disaster Nursing Research Conference 2012, (Cardiff, U.K).

Kato, R., Komuro, K., Nishida, S., & Numaguchi, C. (2013). Evaluation of a Tool Developed for Improving the Self-Care Ability of Children with Physical Disabilities in Disaster Preparation. 3rd World Academy of Nursing Science, (Seoul, South Korea).

Kato, R., Komuro, K., Numaguchi, C., Nishida, S., Sato, N., & Kai, K. (2016). Post Great East Japan Earthquake-Recognized Roles of Principals for Natural Disaster Preparedness at Special Support Schools. The 4th World Society of Disaster Nursing Academic Conference, (Jakarta, Indonesia).

Kato, R., Katsuda, H., Numaguchi, C., Hara, A., Sato, N., & Komuro, K. (2017). The Necessity for increased Capability to Prepare for Natural Disasters by Students Requiring Medical Care -As recognized by teachers/staff at Special Support Schools-. TNMC & WANS International Nursing Research Conference, (Bangkok, Thailand).

Kato, R., Komuro, K., Numaguchi, C., Hara, A., & Sato, N. (2018). Tool Development increase Capabilities of Children with Various Challenges and Children Requiring Medical Care to Prepare for Numerous Natural Disasters in Japan. 5th Research Conference of World Society of Disaster Nursing, (Bremen, Germany).

■研究発表時の所属

2011.4～2013.3 共立女子短期大学(看護学部設置のため)

2013.4～2016.3 共立女子大学

2016.4～ 関西医科大学

■所属学会・研究会(役職・資格等)

・日本小児看護学会(評議員、専任査読委員、2020年度研究奨励賞選考委員)

・日本看護科学学会(和文誌専任査読委員)

・日本小児保健協会

・日本災害看護学会(専任査読委員)

・日本学校保健学会

・日本看護学教育学会

大学院医学研究科学学位記授与式

9月29日(火) 15時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄研究担当副学長、人見浩史大学院医学研究科教務部長らが列席し、「2020年度9月学位記授与式」が挙行されました。新たに誕生した医学博士12名(課程博士9名、論文博士3名)のうち、当日出席した10名(課程博士8名、論文博士2名)に友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では学位取得者の努力に対するねぎらいの言葉が述べられ「さらに成果を出して後輩を指導してほしい」とのエールが贈られました。



学位記を手に写真に納まる修了生

消防訓練を実施

7月20日(月) 15時から、枚方学舎医学部棟4階中会議室及び医学部棟正面玄関前において法人初動隊の職員ら7名が参加し、大学学舎消防訓練が実施されました。訓練ではまず、大学の統括防火管理責任者である法人事務局総務部総務課久保忠昭係長が講師を務め、学校施設で発生する可能性のある火災事例、火災による死亡事例の死因、火災が発生した時の対応などについて座学訓練を行いました。その後、医学部棟内の避難経路や防火区画を確認し、正面玄関前で水消火器を使った消火訓練を行いました。

服部研究教授の研究計画が川野財団の研究助成に採択

9月4日(金)、iPS・幹細胞再生医学講座服部文幸研究教授が進める新型コロナウイルス感染症に関する研究計画が、30年以上の長きにわたって小児医療の発展をサポートし続けている公益財団法人川野小児医学奨学財団が実施した2020年度新型コロナウイルス感染症に関する研究助成に採択されました。本学にとっては、初めて同財団からの研究助成獲得となりました。

服部研究教授が様々なヒトiPS細胞由来の組織に対して新型コロナウイルスの侵入可能性を調べた結果、心筋細胞に多くの侵入点(ACE2)が現れることが分かりました。また、新型コロナウイルスは様々な臓器へ感染し、感染の長期化や再燃につながっている可能性があるといわれています。今回の研究はこれらの発見を元に、心筋に対する新型コロナウイルスの感染可能性を確認するものです。最終的に、新型コロナウイルス感染症の予防・早期治癒・重症化防止が可能になること、今後登場するかもしれない未知のウイルスに対しても感染予防効果を得られることが期待されています。

「生活看護論実習Ⅲ」健康教育実施

7月7日(火) 10時50分から看護学部棟各階講義室他において、3回生が履修する「生活看護論実習Ⅲ」の一環で「健康教育」を実施しました。

「生活看護論実習Ⅲ」では地域で生活する人々の発達段階、生活状況に合わせた援助の特徴と活動方法について理解し、集団支援、健康教育について学び、技術を習得します。今年度は、デイケア施設や子ども・子育てプラザなどの利用者を対象に健康教育を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、学生間で行うこととなりました。

学生たちは、健康教育の企画前に映像資料(乳がんの体験談、認知症の方の介護者の体験談)を視聴し、その人たちの健康課題や支援ニーズについて、グループ学習。

そして、どんな方々にどのような健康教育を実施すれば、その人たちにより良い健康的な暮らしができるか検討を重ねた上で、様々なテーマで健康教育を企画、実施しました。



クイズを取り入れながら認知症について解説する学生

看護学部「進路ガイダンス」初開催

8月4日(火) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、看護学部3学年を対象とした初めての「進路ガイダンス」が開催されました。

ガイダンスでは、看護学部片田範子学部長の挨拶の後、「進路の可能性と心構え」と題してキャリア支援委員会太田祐子委員長から、「関西医科大学附属医療機関の看護の魅力」と題して安田照美統括看護部長から、それぞれ説明が行われた他、就職関連企業の担当者から就職活動におけるポイントに関する講演がありました。その後は、本学人事部から採用に関する説明が行われた後、保健師として就職を希望する学生向けに、保健師の勤務経験がある地域看護学領域中原洋子助教から採用に関する注意点やアドバイスがなされ、さらに大学院進学を希望する

学生向けには、大学院入試委員会藤本悦子委員長から大学院の概要や入試に関する説明が行われました。

なお、2018年に開設した看護学部は2022年3月に初めての卒業生を輩出する予定です。



学生に向け語り掛ける片田学部長

病院

附属病院

がんセンター看護師が出張授業

7月10日(金) 13時15分から大阪府立刀根山支援学校大阪精神医療センター分教室(枚方市宮之阪)において、本学附属病院がんセンター松森恵理師長(がん性疼痛看護認定看護師)が同校の中学生3名を対象に、がんについての出張授業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環で、がんに関する知見の社会還元を目指すがんセンターと、外部講師による授業で子どもたちのさらなる成長を図りたい刀根山支援学校側の思いが一致した結果、実現したものです。松森師長は、がんについての基礎知識から病気としての特徴、早期発見のポイントや治療法、緩和ケアの内容だけでなく、看護師という職業についても解説。クイズも交えながら

丁寧に説明し、出席した中学生は松森師長の問いかけにも積極的に答えるなど、活発な授業が行われました。



授業でクイズを出す松森師長

附属病院

第6回関西医科大学先端がん医療セミナー開催

8月19日(水)に関西医科大学附属病院がんセンター及び7大学連携個別化がん医療実践者養成プランの主催にて「攻める！骨転移診療」というテーマで「第6回関西医大先端がん医療セミナー」が開催されました。これは3月に関西医科大学で開催予定であったセミナーが延期となり、Webセミナーとして全国から参加者を募集したもので、450名の参加がありました。

「攻める！骨転移カンサーボード」と題して東京大学医学部附属病院リハビリテーション科篠田裕介准教授が、「攻める！脊椎転移に対する根治的手術」と題して名古屋市立大学病院整形外科村上英樹教授が、「攻める！骨転移に対する定位放射線治療」と題して東京都立駒込病院放射線診療科伊藤慶医員がそれぞれ講演を行い、総合討論の時間も設けられました。その中で、放射線科学講座中村聡明准教授がファシリテーターを務めました。

総合医療センター **DMATが熊本に派遣**

7月4日(土)に、熊本・鹿児島両県を中心とした地域において観測史上最大規模の記録的な豪雨災害が発生し、球磨川の氾濫による住宅の冠水など甚大な被害が生じたことを受けて、総合医療センターから災害派遣医療チーム(DMAT)が2次にわたり派遣されました。7月6日(月)から派遣された1次隊は、熊本県に到着後、県南部保健医療調整本部のもとで、患者搬送や芦北町役場にて薬事関連業務に従事。医師・看護師と薬剤師の2チームに分かれ、医師・看護師チームは芦北地域の医療ニーズ調査を行った他、薬剤師は処方フローの作成、定期内服薬が不明な患者さんの処方薬調査など、5日間にわたり現地で支援活動を行いました。また、7月10日(金)からは1次隊の交代で2次隊が派遣され、芦水地域保健医

療調整本部のもと、芦北町や津奈木町地域における避難所・高齢者施設の医療ニーズ調査に加え、患者搬送業務などに従事しました。



熊本に派遣された総合医療センターDMAT1次隊とドクターカー

総合医療センター **DPC特定病院群に認定**

2020年4月、厚生労働省から「DPC特定病院群(大学病院に準ずる機能を有する病院)」の認定を受けました。DPC特定病院群とは、大学病院本院群以外の施設で、4つの評価基準から診療実績を評価し、大学病院本院に準じた診療密度と一定の機能を持つとみなすことが可能な医療機関のことを指します。

当院は今後も、DPC特定病院群の病院として地域医療機関との連携を図り、より多くの方に高度な医療を提供できる体制と環境の整備を推し進め、質の高い安全で安心できる医療をお届けすることで地域の皆さんに貢献していきます。

【評価基準】

1. 診療密度
2. 医師研修の実施
3. 高度な医療技術の実施
4. 重症患者に対する診療の実施

【DPC病院群の種類】

病院群	説明
大学病院本院群(旧Ⅰ群)	大学病院本院
DPC特定病院群(旧Ⅱ群)	大学病院本院に準じた診療機能を有する病院
DPC標準病院群(旧Ⅲ群)	その他の急性期病院群

香里病院 **KORIプログラム始動 延山病院教授が音頭**

香里病院では、内科延山誠一部長(病院教授)を筆頭に、北河内地域におけるCOPD治療のレベルアップを図る、KORIプログラム(Kansai medical university COPD Recovery & Investigate total program)を展開しています。これは、COPDに関する正しい知識や適切な診断・治療の普及を目指し、香里病院だけでなく関係諸機関への啓発を図り、患者さんの治療水準・QOLの向上を目指す取り組みです。

また同プログラムの一貫として、延山病院教授は8月20日(木)に寝屋川市役所を訪れ、広瀬慶輔市長と面会。COPDやCOVID-19の予防という観点から、禁煙を啓発する同市との共同事業を模索することとなりました。さらに9月3日(木)17時30分からは、延山病院教授が医療法人一祐会藤本病院別館において「藤本病院・COPD

勉強会」を実施。同病院藤本明久理事長や程修司病院長など、医師・看護師・MSW(医療ソーシャルワーカー)ら29名が参加し、COPDについての講演を受講しました。延山病院教授は呼吸器リハビリ治療の重要性と意義を訴え、同病院におけるCOPD治療の展開も提案しました。



寝屋川市廣瀬市長(中央)と面会する延山病院教授(左)

くずは病院 くずは病院に電子カルテ導入

8月1日(土)からくずは病院において、本学医療機関群が利用しているものと同タイプの電子カルテが導入されました。これは、関西医科大学グループの一員として診療情報を共有することで医療の完成度を高め、合わせて業務の効率化を図り、最終的には患者さんに対する医療サービスの質を向上させるために導入が検討されてきたものです。

今回のカルテ電子化により、4病院(附属病院・総合医療センター・香里病院・くずは病院)の診療データを一元的に分析することが可能となり、診療計画の立案や患者さんの状態把握をグループ全体で行う体制が整いました。その結果、より最適な診療を提供できるようになっただけでなく、本学が展開する在宅ケア・訪問看護などの介護福祉サービスもシームレスに提供できるようになりました。

くずは病院は今後、電子カルテのデータを発展的に活用し、職員一丸となって医療の質向上に取り組んでいきます。

卒後臨床研修センター

令和3年度初期臨床研修医採用試験

8月7日(金)及び8月14日(金)「令和3年度初期臨床研修医採用試験」を実施しました。今年はコロナ禍を考慮して、面接試験を中止し、小論文試験を実施しました。また、筆記試験会場もソーシャルディスタンスを保つ為、例年より座席の間隔を広く設定しました。

来年度は附属病院プログラムの定員が1名増となり41名、小児科重点プログラム2名、産婦人科重点プログラム2名、総合医療センタープログラム7名、計52名の募集に対し、本学卒業見込み者69名、その他82名の計151名から応募がありました。



試験会場(各講義室)

令和3年度採用専攻医研修説明会

8月29日(土) 15時半から枚方学舎医学部棟3階学生食堂において、令和3年度採用専攻医研修説明会が開催されました。今回はコロナ禍での開催となった為、学内1年次研修医を参加不可とし、説明側も各ブースに1名、会場もソーシャルディスタンスが保てるようなブース配置としました。また、会の開催を1時間とする為、友田幸一学長、卒後臨床研修センター金子一成センター長(小児科)からの挨拶のあと、すぐに19プログラムのブースに分かれて、各プログラムの説明を行いました。当日は学内の2年次研修医21名、他病院の研修医7名の計28名が参加しました。



ブース説明会の様子

学会賞等受賞情報

2020年7月～9月の学会賞受賞者を紹介します。

日本呼吸器学会 熊谷賞

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授

- テーマ 非定型病原体による呼吸器感染症の病態解明、迅速診断法の開発ならびに治療戦略の確立
- 授与学会 第60回日本呼吸器学会学術講演会



2020年日本小児科学会学術研究賞

小児科学講座 辻 章志 准教授

- テーマ 小児の特発性ネフローゼ症候群の病因論に関する網羅的研究
- 授与学会 日本小児科学会



国際ソロプチミスト大阪 クラブ賞

形成外科学講座 覚道 奈津子 准教授

- テーマ ヒト脂肪幹細胞の特性解析と再生医療への応用
- 授与学会 国際ソロプチミスト大阪



第14回国際優秀演題賞

内科学第三講座 住本 貴美 診療講師

- テーマ Nationwide Epidemiological Survey of Autoimmune Pancreatitis with Malignancy in Japan
- 授与学会 日本膵臓学会



Young Investigators Bursary Award

外科学講座 中竹 利知 助教

- テーマ The protective effects of a sense oligonucleotide drug targeting inducible nitric oxide synthase for a rat model of acute liver injury
- 授与学会 欧州肝臓学会国際肝臓会議(International Liver Congress 2020)



日本脊椎脊髄病学会優秀論文

整形外科科学講座 石原 昌幸 助教

- テーマ 成人脊柱変形術後proximal junctional kyphosis対策とその効果
- 授与学会 第49回日本脊椎脊髄病学会



お知らせ 新型コロナウイルス感染症に係わる影響を受けた学生等に対する経済的支援等について

本学大学サイトに下記の通り、経済的支援等の主なものについてまとめています。詳しくは下記QRコードよりご確認ください。

- | | |
|---|---|
| ①高等教育の修学支援新制度
【非課税世帯及びそれに準ずる世帯の方】 | ⑥生活福祉資金貸付金(教育支援資金)【低所得世帯】 |
| ②日本学生支援機構の貸与型奨学金【幅広い世帯の方】 | ⑦母子父子寡婦福祉貸付金(就学支度資金・修学資金)
【母子・父子・寡婦家庭の方】 |
| ③各大学等の授業料の延納 | ⑧特別定額給付金(総務省)【住民基本台帳に記録されている方】 |
| ④自治体独自の奨学金や民間奨学金等【制度等により異なる】 | ⑨日本政策金融公庫の教育ローン【幅広い世帯の方】 |
| ⑤生活福祉資金貸付金(緊急小口貸付貸付等の特例貸付)
【幅広い世帯の方】 | ⑩雇用調整助成金の特例措置【雇用主】 |
| | ⑪新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金 |

【参考】・新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金

厚生労働省ホームページ⇒ <https://www.mhlw.go.jp/stf/kyugyoshienkin.html>

・〈概要〉新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金

厚生労働省ホームページ⇒ <https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000646900.pdf>

・〈労働者・事業主の皆さまへ〉新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金のご案内

厚生労働省ホームページ⇒ <https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000646892.pdf>



関西医科大学広報Vol.50(2020年9月1日発行)、p22掲載「その他外部資金」記載内容に誤りがありました。

(誤)寿野良二講師 助成額等 200,000 → (正)寿野良二講師 助成額等 2,000,000 お詫びして訂正申し上げます。

アート探訪

関西医科大学及びその附属医療機関に寄贈された美術品をご紹介します新企画です。
今回は、枚方学舎医学部棟 1階に展示されている3作品をご紹介します。



「パリの風景」

作者：ポール・アイズベリ
(フランス/1919年5月14日-2016年1月22日)

パリに生まれ、ピカソやシャガール、藤田嗣治
などと同時代に活躍した画家です。

寄贈(2014年頃)：桑原博子氏

大学
医学部棟
1階



「牧場の少女」

作者：富永直樹
(1913年5月18日-2006年4月11日)

文化勲章受章・日本芸術院会員。
彫刻家。

寄贈(2015年)：富永良太氏



「みのり」

作者：山畑阿利一
(1908年9月12日-1980年10月14日)

日展評議員。同作品は第3回新文展
特選作品。

寄贈(1969年頃)：千葉カヅ氏、
千葉洋彦氏



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2020年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

附属生命医学研究所 細胞機能部門 小原 圭吾 講師	日刊工業新聞 (7月7日)	群馬大学、大阪ハイテクノロジー専門学校との共同研究で、遺伝子同士の間を人工的に起こして遺伝子編集の制御や可視化を行う一連の技術「BATTLE」を開発したこと、また同技術によりアルツハイマー病やパーキンソン病など多くの神経疾患の原因となるシナプスの形態異常の早期発見につながるなどの将来像が紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	読売新聞 夕刊(東京版) (7月11日)	眼精疲労特集した記事の中で、症状の一つであるVDT(ビジュアル・ディスプレイ・ターミナル、画像表示端末)症候群について「テレビゲームなどの長時間利用でも起きており、低年齢化する傾向があるなど、現代病の一つと言える」と解説したコメントが掲載されました。
眼科学講座 山田 晴彦 准教授	毎日新聞 朝刊 (7月31日)	大阪府眼科医会「第13回 目の健康講座」として開催された中高年から増える目の病気と治療法を解説するウェブ座談会において司会を務め、加齢黄斑変性の症状や治療法などを紹介したことが掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (8月3日)	リモートで出演し、「子どもの健康と腸内環境との関係」をテーマに、腸内フローラが人の成長過程でいつ頃形成されるかや、腸内環境が年齢によってどう変化するか、などについて解説しました。
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 岩井 大 教授	毎日新聞 朝刊 (8月7日)	大阪府耳鼻咽喉科医会などが紙上開催した「第10回 鼻の日セミナー あなたの鼻は健康ですか？」において、花粉症やPM2.5の影響、慢性副鼻腔炎や副鼻腔にできるがんなどについて解説し、症状・治療法などを紹介したことが掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (8月10日)	リモートで出演し、「分娩方法と腸内環境との関係」をテーマに、早産で産まれた場合の影響や母乳で育てる場合と人工乳で育てる場合の違い、などについて解説しました。
小児科学講座 金子 一成 教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (8月17日)	リモートで出演し、「子どもの腸内環境とアレルギー」をテーマに、腸内環境とアレルギーの関係について、腸内環境が改善することによってアレルギーが改善する場合があることなどを解説しました。
腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授	毎日放送「医のココロ」 (8月22日)	「こんなときは泌尿器科へ」をテーマとした回に出演し、「EDについて」と題して男性更年期障害などEDが起こる原因や治療法などについて解説。「相談しにくい病気がだが、夫婦二人三脚で考えることが大切」などのコメントが放送されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (8月24日)	リモートで出演し、「腸内環境の乱れと病気の関係」をテーマに、腸内環境の乱れが病気を引き起こすメカニズムや、帝王切開で産まれてきた場合の腸内環境の形成、治療法などを解説しました。
看護学部 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (8月30日)	介護や訪問看護現場におけるセクハラ問題を取り上げた記事内で「業界全体が意識を変える必要がある」と述べたコメントや、行政の対策と事業所の啓発を促したことが掲載されました。
小児科学講座 金子 一成 教授	TBSラジオ「腸から始まる健康ライフ」 (8月31日)	リモートで出演し、「腸内環境と病気の予防」をテーマに、腸内細菌についての最新見や、このところ注目している腸内細菌に関する研究などについて解説し、和食を中心とした食生活が良好な腸内環境の維持につながるとコメントしました。
脳神経外科講座 浅井 昭雄 教授	読売新聞 夕刊 (9月2日)	連載企画「医なび」において脳腫瘍の発症原因や症状、治療法などについて解説し、「起床時の頭痛が2週間以上続くなど典型的な症状がある場合、脳腫瘍を疑って精密検査を受けるのが望ましい」とのコメントが掲載されました。
看護学部子ども看護学領域 大橋 敦 准教授	毎日新聞 朝刊 (9月8日)	連載企画「ご近所のお医者さん」に登場し、生まれてくる時に自力で泣き出すことができる約10%の赤ちゃんに対して行う新生児蘇生法に関する解説が掲載されました。
救急医学講座 鎌方 安行 教授	毎日新聞 朝刊 (9月15日)	特集「ご近所のお医者さん」において、日本医師会災害医療チーム(JMAT)の発足のきっかけや活動状況を解説し、「災害時に国や行政だけでなく日頃から研修を積んでいる医師会のチームが活動していることも知ってほしい」とのコメントが掲載されました。
眼科学講座 大中 誠之 講師	読売新聞 朝刊 (9月25日)	連載企画「医の現場」での加齢黄斑変性を取り上げた記事で、早期発見と治療により視力が維持できることと、継続的な治療の重要性を訴えました。
麻酔科学講座 中嶋 康文 診療教授	読売新聞 夕刊(東京版) (9月26日)	体に触れることなく体温を計測できる機器を取り上げた「なぜ触れずに検温できるの?」と題する記事の中で、非接触型体温計や皮膚赤外線体温計が人間の体の表面から放出される赤外線センサーで測定していることや、正確な測り方、気を付けることを解説したコメントが掲載されました。

《新型コロナウイルス感染症関連》

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (7月3・13・20・21・22日、8月4・5・11・ 12・13・14・18・19・20・21・25・26日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「ミント1」 (7月13・14・21・22・29日、8月4・5・10・ 12・13・14・18・19・20・21・25・26・27 日、9月1・2・10日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	毎日放送「ミント1」 (7月28日、8月17日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	朝日放送「キャスト」 (8月7日)	リモートで別室から出演し、新型コロナウイルス感染症に関して近場で出かける際の注意点、熱中症と新型コロナウイルス感染症の救急搬送時の対応の違い、大阪独自の濃厚接触者フォローアップセンターの取組みなどについてコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	読売テレビ「あさパラ」 (8月15日)	スタジオに出演し、熱中症での救急搬送、熱中症と新型コロナウイルス感染症の見分け方、家庭でできる感染拡大防止策、コロナ特措法の改正、芸能界でのコロナ感染、ワクチン開発などについて解説しました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	日本経済新聞 夕刊 (8月27日)	プール施設での新型コロナウイルス感染予防策について、一般的にプールは飛沫が漂いにくいとした上で、プールサイドなどで他の利用者と2メートル以上距離を空けることが望ましいと指摘した他、感染を防止するためには施設側だけでなく利用者側の協力も必要だとするコメントが掲載されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「胸いっぱいサミット!」 (9月26日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関連してインフルエンザとの同時流行の可能性や、4連休で外出する人が増えたことの影響、大阪府発表のPCR検査拡充方針についての評価、今後気をつけたい感染予防のポイントなどを解説しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

本学周辺の木々も色を変え、本格的な秋の訪れを感じ始めました。秋といえば食や読書、そして芸術です。本誌においても新企画として「アート探訪」を企画いたしました。本学及び病院内で展示されている美術品を紹介していきます。コロナ禍でいつものように外出を楽しめない今、ぜひ誌面上で美術鑑賞をお楽しみください。(お)

関西医科大学広報 Vol.51

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2020年12月1日(火)発行